公認会計士　三田会

会　報

©慶応義塾

目次

会長挨拶 …… 01
三田会会長/小見山満（昭和52年経済学部卒）

CSP-CFP関係 …… 02
慶應義塾大学商学部長/岡本大輔（昭和56年商学部卒）

今こそ独立の意味が問われる時 …… 03
三田会副会長/大塚敏弘（昭和59年商学部卒）

会計や監査とはかけ離れた内容ですが。 …… 04
三田会幹事/要石博之（昭和62年経済学部卒）

変化の中で、変わらないもの …… 05
三田会副会長/吉川高史（平成8年経済学部卒）

「リーダー」とは …… 06
三田会幹事/鄭善斗（平成29年経済学部卒）

独立自尊 …… 07
三田会新人世話人/高山大輔（平成31年経済学部卒）

公認会計士試験の状況 …… 08

公認会計士試験　合格一覧 …… 09

総会・新人歓迎会・研修会報告 …… 11

ゴルフ報告 …… 12

役員一覧 …… 13

公認会計士三田会・会則 …… 14

2020年 3月 第44号

公認会計士三田会
会長
小見山　満
昭和52年経済学部卒

会長挨拶

昨年3月に公認会計士三田会会長に就任いたしました昭和52年経済学部卒の小見山満でございます。現在、5000名を超える塾出身の公認会計士三田会は、公認会計士業界を支える重要な存在と言っても過言ではありません。当会員は監査法人や上場企業、更には日本公認会計士協会などにおいて中心的役割を果たしているからです。

公認会計士の活躍の場は、ここ10年間で今まで想像もできなかったほど広がってきました。ITやAIが発達して公認会計士の仕事は減っていくのではないかと主張するメディアも多かったのですが、全く逆の現象が起きているのです。御存知の通り、企業経営にアドバイスをするコンサルタント、企業内会計士、社外役員、更には、中小企業を支える経営指導者や事業継承・相続の相談や申告をする公認会計士が急増しています。特に、合理化を求める企業の要求にITを活用する提案ができる公認会計士が増えてきました。一方、海外で活躍する公認会計士も増えてきています。日本企業の海外進出のお手伝いや高所得者の資産運用アドバイスをしたり、逆に日本に進出してくる外国企業の日本での活動の援助をしたりしています。それらの方たちは、先輩や同僚のネットワークを活用して次の分野にチャレンジしている方が多いようです。人的な交流を大切にし、未知の分野を知ることは人生にとって重要な財産になります。そのためにも、人事交流の場として各種懇親会などを企画している公認会計士三田会のイベントに参加して、一人でも多くの先輩と名刺交換をして下さい。塾員でしたらいつでも参加いただけます。

慶應義塾大学は大学別公認会計士試験合格者数45年連続1位を保ってきていますが、まだまだ合格者が足りない状況です。そこで公認会計士三田会では、会長と若手会員が毎年日吉キャンパスを訪れ、1、2年生を対象に公認会計士の仕事の現状と将来性をお話しています。公認会計士三田会の若手会員がその準備にも力を発揮してくれています。

昨年秋には慶應義塾大学医学部の中村教授に再生細胞を活用したお話をしていただきましたが、開場が一杯になるほどの若手の会員が参加してくださり、中村教授のお話に最後には目に涙を浮かべるほど感動した会員も少なくなかったようです。

公認会計士三田会は、皆様のお力で支えられています。一人でも多くの会員の方にご参加いただき、この会を若手中心の会として盛り上げて下さい。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

慶應義塾大学
商学部長
岡本　大輔
昭和56年商学部卒

CSP-CFP関係

2019年10月より、商学部長になりました、岡本です。自己紹介として、私の研究内容をご紹介させていただきます。というのは、専門は経営学なのですが、その中でも企業評価という領域で、それはちょうど、経営学と会計学の境界領域になるからです。

企業評価とは、一言でいえば、どのような企業が良い企業で、どのような企業が悪い企業かを考える学問です。良い悪いの基準は、評価を行なう立場によって、目的によって、様々ですが、昔からよく言われる「儲かっていて伸びている」という基準があります。もう少し固い言い方をすると、収益性と成長性となります。

現代企業にとっても、収益性と成長性はもちろん大事な基準ですが、私はそれだけでは足りない、と考えております。現代企業、特に大企業の社会的影響力は巨大で、もはや、自分だけが儲かっていて伸びている、というのは許されない時代であるからです。

そこで私は良い企業の3つ目の基準として、社会性を提唱してきました。社会性は、企業と社会との関係という意味で、日本では高度成長期以来、企業の社会的責任という考え方が広く浸透してきました。21世紀に入ってからは、西洋生まれのCSRという言葉が日本でも普及しています。CSRは Corporate Social Responsibilityの頭文字ですから、そのまま訳せば、企業の社会的責任です。

しかし社会的責任というと、公害を出さない、騒音を出さない、汚水を排出しないなど、社会にとってのマイナス活動を行なわない、という受け身の姿勢や、本業とは関係のない寄付活動などを想定する場合も少なくありません。CSRにおいては、それらの受け身の社会的責任も含みますが、もっと積極的に社会との関係を考え、それを本業に生かした形で社会との関係をよくしていく、という戦略的な考え方になります。

実際には、収益性・成長性と社会性を同時に達成していくことは難しく、私は短期的目標としての収益性、中長期的目標としての成長性、超長期的目標としての社会性という位置づけで考えています。そして、それが実際に達成できているか否かを測る分析をCSP-CFP関係の分析と呼びます。これは企業の社会的成果（Corporate Social Performance）と企業の財務的成果（Corporate Financial Performance）の分析であり、まさに、経営学と会計学の橋渡しになるわけです。

公認会計士の皆様方も、是非、CSP-CFP関係を考えていただければ、と思います。

参考文献

Okamoto, Daisuke “Social Relationship of a Firm and the CSP-CFP Relationship in Japan: Using Artificial Neural Networks,” Journal of Business Ethics, Vol.87 No.1, 2009, pp.117-132.

岡本大輔『社会的責任とCSRは違う！』千倉書房、2018.

公認会計士三田会
副会長
大塚　敏弘
昭和59年商学部卒

今こそ独立の意味が問われる時

私は監査法人に所属して会計監査業務に30年余り従事していますが、被監査会社の帳簿及び監査調書が紙からシステムあるいは電子への変化はあったものの、被監査会社の現場に行き、内部統制に依拠をして試査を実施するという点では、監査手法は大きく変わっていません。しかしながら、今、これがデジタル技術によって大きく変わろうとしています。

デジタル技術は今まで見えなかったものを可視化し、現場に行かなくても、しかも随時に情報を入手できるなど、今まで出来なかったことを可能にします。それによって監査手続きの選択肢が大幅に拡大されつつあります。また、RPA等の技術によって、従来、人が単純作業として実施していた業務が自動化されることにより、我々プロフェッショナルがより高度な知識、判断力を必要とする領域に注力できる環境になってきています。

同時に、法規制をはじめ、働き方改革の浸透により、時間は有限であるという前提の労働環境になってきています。

将来、会計監査の業務がなくなるという人もいますが、将来の会計監査の業務は現在と同じではないと思いますし、現在の監査業務イコール将来の公認会計士の業務でもありません。会計監査、あるいは公認会計士の業務は社会科学であって、資本市場の求めに応じて変化するものです。より情報及びデータが氾濫する市場において、公認会計士のような公正な第三者的なプロフェショナルはより必要とされていくのではないでしょうか。

このような環境の中で、現在においては、我々プロフェッショナルは限られた時間の中で、社会から期待される役割を果たすことが求められますし、将来的には市場が何を求めているかをいち早く把握する必要があります。その期待に応えられるようするためには必要なスキルを身に着け、自分の意思をもって考えることがより重要になります。その必要なスキルは伝統的に勉強してきたスキルと違うものがあるかもしれません。

また、集団の中にいても個人の役割は非常に重要になってきています。かつては電子ツール等によって誰がやっても均質になるような会計監査の商品化を目指しましたが、今後は監査チーム内のどのようなポジションでもその場面、その場面で自らの意思で考え、判断する領域が多くなると考えられます。それは1人のリーダーがいて、他の人はフォロワーであるというスタイルではなく、1人ひとりが自身のリーダーであるスタイルで働くことを意味します。

このように、今、我々に求められていることは、「自分で考えて独立せよ」という福澤先生の教えそのものですね。

公認会計士三田会
幹事
要石　博之
昭和62年経済学部卒

会計や監査とはかけ離れた内容ですが。

昨年は、令和という新しい元号を迎え、元号が注目された年であった。しかし、その一方で、改元を機に、契約書等の書類について元号から西暦に変更しているケースが多くみられた。「監査契約書」も「委託審査に関する事項」に記載されている「監査意見表明のための委託審査要領」の最終改正日を元号から西暦に変更しているのだから、同様のことが言えるであろう。私の場合、特に指定がない限り、元号を使用してきたと思うが、正直、あまり意識して使い分けたことがなかった。そこで、私は、自省の意味も込めて、日本人にとって元号とは何なのかについて考えてみることにした。

日本の元号は「大化」で始まったのであるが、制度として定着したのは「大宝」からである。以後、途切れることなく現在に至っているわけであるが、世界の主流が西暦にあって、なぜこの伝統を守り続けているのだろうか。そこには、元号を発明した古代中国の思想「皇帝が時間をも支配する」という考え方が根底にあるようだ。東アジア諸国の中には中国や日本の他に朝鮮王朝やベトナムも元号を採用していたのであるが、唐王朝の冊封体制等により、その国独自の元号が消滅し中国の元号を使用していたという歴史がある。そのような中、日本は独自の元号（和暦）を1300年以上にわたって使用し続けてきたのであり、その意味では独立国家として存在してきた矜持の象徴として位置づけていたと考えることもできるであろう。

現在の元号は「一世一元」が制度化されているが、明治時代以前は改元に関する法律はなく、「代始の改元」の他に、縁起の良いことが起こったときに行なわれる「祥瑞改元」や自然災害等の理由で改元される「災異改元」があった。「祥瑞改元」としては武蔵国で産出された自然銅が朝廷に献上されたことを記念した「和銅」、「災異改元」としては大乱の事態収拾に願いを込めて改元された「応仁」がある。さらには「承久の乱」、「文永・弘安の役」、「建武の新政」、「元禄文化」、「享保の改革」、「安政の大獄」等、元号は日本人にとって文化的、政治的、社会的に重要な意味を持っているといえる。慶應義塾も「創立の年号に取て仮に慶應義塾と名く」として命名されている。今では、「昭和の歌姫」、「平成の怪物」等、ひとつの時代を区切り見つめ直す時代区分となっている。

そう考えると、元号は、今もって、日本人共通の時間軸であり、日本人としてのアイデンティティそのものであるといえる。便利でありさえすればいい等の理由で西暦に一本化するのではなく、西暦か元号かを選択する余地を残せば良いし、それを併用できる器用さも日本人の力であると考える。

公認会計士三田会
副会長
吉川　高史
平成8年経済学部卒

変化の中で、変わらないもの

公認会計士三田会の皆さん、こんにちは。新人の皆さん、合格おめでとうございます。

私は平成7年10月に公認会計士2次試験を通りましたので、今年は会計士の仕事を始めて25年目になります。

合格した当時はバブル経済崩壊の後で、景気が年を追うごとに悪くなっていくのが実感できるような時期でした。携帯電話が普及し始めていましたが、日々の連絡は固定電話がメイン、スタッフが使えるPCは監査部門共有のデスクトップが4～5台、もちろんクライアントからいただける資料も紙のものがほとんど、当然に監査調書は紙面調書のみという時代。紙で打ち出された分厚い総勘定元帳をめくりながら、異常な仕訳を探したものでした。

それから25年、仕事環境は見違えるくらいに大きく変化しています。携帯はもちろん、PC一人一台、タブレットの使用も当たり前、ITのおかげで情報収集や情報伝達のツールは、質、量、スピード、すべてにおいて格段に便利になっています。監査の手法もクライアントのすべての仕訳データにチェックをかけるという極め細やかで網羅的な検証が可能となり、今後はそれをよりタイムリーに、そしてAIで異常なものを漏れなく拾えるようにと、ツールの開発も進んでいます。

この25年、書ききれないくらいの大きな環境の変化がありましたが、その中で変わらないこともあります。

まず、監査は今も昔も財務諸表に誤りがないことを確かめるのが目的です。言い方を変えれば、誤りを見つけて正しくするのが仕事であり、そこに変化はありません。どうやって誤りを見つけるか、どうしたら会社が間違えないか、をこれからも追求していくものだと思います。

次に、どんなにITが発達しても結局、仕事をしているのは人だということです。嘘をついたり間違えたりするのは（システムエラーであれ）、人に依るところが大きいということも変わらないと思います。

そして、人が仕事をしている以上、コミュニケーションが大切ということも不変です。クライアントであっても監査法人内であっても会話をしなければ仕事は進みません。様々なコミュニケーションツールはありますが、やはりface to faceの会話により、そこで働いている人を知り、表情や雰囲気を確かめながら仕事することが大事です。

最後に、変わらないもの、それは公認会計士三田会です。塾出身の会計士は、どんなに時代が変わろうと、仕事のやり方が進化しようと、その時その時代の公認会計士業界を支え、様々な分野の第一線で活躍しています。そんな先輩後輩が集まり、社中協力、半学半教、法人の垣根を越えて、気軽に思ったことを話し合える場であることは今も昔も変わりありません。慶應義塾があり、公認会計士三田会がある。変化が激しい中だからこそ、何か軸となる、安定した、安心できる、誇れるものに価値を感じるのは私だけでしょうか?

これからも公認会計士三田会が皆さんの一つの拠り所となるように、盛り上げて行ければと思います。皆さんと3月25日の新人歓迎会でお会いできることを楽しみにしています。

公認会計士三田会
幹事
鄭　善斗
平成29年経済学部卒

「リーダー」とは

公認会計士三田会の皆様、初めまして。平成29年に慶応義塾大学経済学部を卒業いたしました、鄭と申します。ひょんなことから寄稿の機会をいただき、誠に光栄でございます。

私はPwCあらた有限責任監査法人に勤務しており、シニアアソシエイトとして監査業務に従事しております。平成最後の修了考査に昨年合格し、晴れて正式に公認会計士となりました。責任・業務量・飲酒量・体重等々の大幅な増加に悩みながらも刺激的な毎日を送っているわけでございますが、最近のもっぱらの悩みは「リーダー」についてです。自分は良きリーダーとしてチームを率いているだろうか。正しくリーダーシップを発揮できているだろうか。そもそも良いリーダーとは？正しいリーダーシップとは？などと自問の日々です。皆さんは、「リーダー」とは何だと思われますでしょうか。

最近、通勤電車の中でTED Talksというアプリを使って、様々な専門家によるプレゼン動画を視聴するのが習慣となっているのですが、その中でとても素敵なプレゼンがあったので紹介したいと思います。Simon Sinek氏による「Why good leaders make you feel safe」というプレゼンです。Simon氏はプレゼンの中で、「リーダーとは安心感を与えられる存在である」と語っています。曰く、自ら率先して行動し、誰よりもリスクを冒す人がリーダーであり、そのようなリーダーは組織に安心感を与えられる、と。デジタル化が進む今日においては、会計監査業務も日に日にデジタル化・効率化が進んでおり、膨大な単純作業が業務から消えつつあります。そのような社会において、他者を犠牲にしてでも目標達成を目指すリーダーは取り残されていき、今後より一層、チームメンバーの心のケアを行いながら、負うべき責任を負うことのできるリーダーが求められていくのではないかと考えております。

私も、現場をコントロールする主査として、より一層、正しいリーダーシップを発揮していきたいと思う所存であります。Simon氏の言葉を借りれば、地位だけは高くともリーダーとは呼べないような人間にならないよう、常日頃から自問していきたいと思っています。

最後になりますが、令和元年公認会計士試験合格者の皆様方の合格・入会を心よりお祝い申し上げます。又、日ごろよりお世話になっております先生の皆様方におかれましても今後のさらなるご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。まだまだ公認会計士としても、もちろんリーダーとしても未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

公認会計士三田会
新人世話人

高山　大輔

平成31年経済学部卒

独立自尊

公認会計士三田会の皆様、初めまして。平成31年経済学部卒の高山大輔と申します。

現在は、監査法人トーマツで主に国際監査業務に2年目のスタッフとして従事しております。三田会の皆様には様々な形で大変お世話になっており、今回このような機会を頂けて大変光栄です。

私は2012年に慶應義塾志木高等学校に入学し、2015年に慶應義塾大学の経済学部に入学しました。慶應義塾の一貫教育校である志木高は、慶應義塾の根本精神である「独立自尊」をずっと大事にしていました。そもそも「独立自尊」とは何かと言いますと、「心身の独立を全うし、自らのその身を尊重して人たるの品位を辱めざるもの、之を独立自尊の人と云う」つまり、自他の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行うことを意味しています。会社へ入社してから、この根本精神はまさに会計士という職業にピッタリな言葉だと感じました。皆様のご存知の通り、会計士の一言一言に責任が大きく伴います。そして時にはその会社の存亡に関わる事も少なくありません。経済は日々激しく変化しており、5年前、10年前の常識が通用しないこの現代社会だからこそ、我々会計士は責任意識を強く持つべきだと思います。今こそ「独立自尊」という精神を大事にするべきだと思います。この慶應義塾の根本精神は在学中にではなく、社会人になって初めて、私の心に響きました。

始まる前に不安だった社会人生活はもう少しで一年が経とうとしています。今の私にこのような魅力的な成長できる環境を与えてくれた会計士という資格に感謝しています。そして私に沢山の良き仲間と繋がれる環境を与え、「独立自尊」という言葉を教えてくれた母校にも感謝しています。歳を重ねることで考え方が変わり、環境が変わり、仕事内容が変わっていても、この「独立自尊」という精神だけは変わる事はないでしょう。これからはこの言葉を胸に、真摯に一つ一つの事に向き合っていきたいと思います。

まだまだ未熟ものですが、頂いた機会を無駄にしないよう常にチャレンジをし続け、自らの可能性を更に広げ、社会に貢献できる人材になれるよう日々精進して参りたいと思います。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況》
連続 45 年間、合格者数首位を堅持

令和元年公認会計士試験は、令和元年11月15日に合格者が発表されました。

令和元年の公認会計士試験は、願書提出者総数12,532人、論文式受験者数3,792人、最終合格者数1,337人となっています。合格率は10.7%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は183人であり、2位早稲田の105人に78人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から45年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。

今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【令和元年公認会計士試験の概要　短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	12,532人（前年11,742人）
短答式合格者数	1,806人（前年2,065人）
最終合格者数	1,337人（前年1,305人）
合格率	10.7%（前年11.1%）

【主な大学の合格者数（公認会計士三田会調べ）】

慶應義塾183名、早稲田105名、明治81人、中央71名、東京40名
京都38名、立命館38名、神戸36名、一橋34名、法政34名

以上

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験　大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

年次＼順位		１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位	９位	１０位
1	昭和４５年度（１９７０）	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和４６年度（１９７１）	中央 51	早稲田 38	慶応義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和４７年度（１９７２）	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和４８年度（１９７３）	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和４９年度（１９７４）	中央 65	慶応義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	－
6	昭和５０年度（１９７５）	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	－	－
7	昭和５１年度（１９７６）	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和５２年度（１９７７）	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和５３年度（１９７８）	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和５４年度（１９７９）	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和５５年度（１９８０）	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	－
12	昭和５６年度（１９８１）	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和５７年度（１９８２）	慶應義塾 26	早稲田 18	明治 16	横浜国立 14	中央 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14	昭和５８年度（１９８３）	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和５９年度（１９８４）	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和６０年度（１９８５）	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和６１年度（１９８６）	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和６２年度（１９８７）	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和６３年度（１９８８）	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度（１９８９）	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成２年度（１９９０）	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本 8
22	平成３年度（１９９１）	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成４年度（１９９２）	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成５年度（１９９３）	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25	平成６年度（１９９４）	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4

26	平成７年度 （１９９５）	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	日本 8	立教 8
27	平成８年度 （１９９６）	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	一橋 38	東京 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成９年度 （１９９７）	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成１０年度 （１９９８）	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成１１年度 （１９９９）	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 21	日本 12	立教 11
31	平成１２年度 （２０００）	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成１３年度 （２００１）	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成１４年度 （２００２）	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成１５年度 （２００３）	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	京都 49	同志社 48	神戸 47	明治 45	大阪 37
35	平成１６年度 （２００４）	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	一橋 56	京都 50	立命館 40
36	平成１７年度 （２００５）	慶應義塾 209	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37	平成１８年度 （２００６）	慶應義塾 224	早稲田 146	東京 73	一橋 69	中央 64	明治 55	同志社 49	京都 48	神戸 38	関西学院 35
38	平成１９年度 （２００７）	慶應義塾 411	早稲田 293	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 73	立命館 71
39	平成２０年度 （２００８）	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40	平成２１年度 （２００９）	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41	平成２２年度 （２０１０）	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42	平成２３年度 （２０１１）	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成２４年度 （２０１２）	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44	平成２５年度 （２０１３）	慶應義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 立命館 26
45	平成２６年度 （２０１４）	慶應義塾 120	早稲田 94	中央 87	明治 69	同志社 43	立命館 29	関西 29	関西学院 28	法政 27	神戸 27
46	平成２７年度 （２０１５）	慶應義塾 123	早稲田 91	中央 64	明治 56	同志社 33	関西 29	関西学院 28	神戸 28	東京 23	専修 22
47	平成２８年度 （２０１６）	慶應義塾 139	早稲田 96	中央 96	明治 72	東京 36	同志社 33	立命館 29	関西学院 27	法政 27	神戸 26
48	平成２９年度 （２０１７）	慶應義塾 157	早稲田 111	明治 84	中央 77	東京 50	京都 48	一橋 36	立命館 31	神戸 29	専修 29
49	平成３０年度 （２０１８）	慶應義塾 144	早稲田 115	中央 77	明治 77	東京 43	京都 39	立命館 39	一橋 37	関西学院 34	立教 32
50	令和元年度 （２０１９）	慶應義塾 183	早稲田 105	明治 81	中央 71	東京 40	京都 38	立命館 38	神戸 36	一橋 34	法政 34

第43期総会

2019年3月26日18時15分から公認会計士三田会第43期総会を開催しました。第43期の事業報告、会計報告を行い、第44 期事業計画及び予算を承認しました。また、任期満了に伴い、新会長として小見山満君（S52卒）が選出され、新たに加藤達也君（S61卒）、新井達哉君（S63卒）、佐藤裕紀君（S63卒）、森田健司君（H7卒）が副会長に選任されました。新幹事選任では新人世話人12名、実行委員3名が異議なく選任されました。

新人歓迎会

総会に引き続き、2019年新人歓迎会を開催しました。慶應義塾大学経済学研究科委員長中村慎助先生、商学部教授園田智昭先生、商学部教授髙久隆太先生、慶應義塾塾員センター課長北村和夫様をお迎えして、2018年合格者をお祝いしました。

秋季研修会・懇親会

2019年10月3日の18時30分から、慶應義塾大学三田校舎の北館ホールにおいて、秋季研修会を開催しました。慶應義塾大学医学部教授（整形外科学）中村雅也先生を講師としてお迎えして「公認会計士の超高齢化対策と再生医療」をテーマに講演をいただきました。研修会終了後は、場所を南校舎のザ・カフェテリアに移して懇親会を開催しました。中村先生の大変有意義なお話しを拝聴した直後だったこともあり、参加者は明るい雰囲気の中で談笑をし、最後は恒例の「若き血」を斉唱し楽しい一時を過ごしました。

早慶戦ゴルフ

2019年9月7日

令和初の公認会計士ゴルフ早慶戦は、茨城ゴルフ倶楽部において開催されました。ここ最近勝った記憶が筆者になく、毎度来年もお相手してくださるよう、頭を下げてお願いし続けております。早稲田の充実した選手陣に、どれだけ慶應が食い下がることができるかがテーマとなっています。我が慶應選手陣のスタート前の話題といえば、「ユニフォームを新調しよう、古いと気合が入らない」とか「暑さ対策」とか、早稲田にゴルフで勝つための本筋から外れておりました。しかし、さすが本番に強い慶應、スタート直後からは表情を引き締めて頑張りました。それでも、早稲田の壁は厚く、グロスの優勝、準優勝を有賀君近野君にさらわれ、ベテランエース小見山会長が3位に食い込むも、早稲田が次々入賞して、あえなく敗戦となりました。去年と同じく、頭を下げて再戦を懇願いたしました。2次会では、情け深い早稲田の方々からご馳走になりました。ありがとうございました。選手諸君には、来年のこの日のために、万全の調整をお願いします。

三田会ゴルフコンペ

2019年12月29日

毎年、年末に開催するのが定着した公認会計士三田会ゴルフですが、今年は初参加の会員もおり、4組での開催となりました。朝のレイクウッドゴルフクラブには、完璧な冬装備のメンバーが集まりました。冠雪の富士が美しく見える中、和気藹々、楽しくプレーしました。優勝は、相談役の森君、準優勝に楠美君、3位に最近上達めざましい加藤君がはいりました。ベストグロスは、1人だけ違うコースを回ったのでないかというようなスコアの新井君となりました。誰でも参加できる会ですので、初心者大歓迎、やってみようか、初めてラウンドでも大丈夫です。お気軽にお問い合わせください。

大学対抗ゴルフ十月会

本年の十月会は、2019年10月13日に予定されておりました。台風18号19号の通過により、開催は中止となりました。被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S52年卒	小見山 満
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	S59年卒	大塚 敏弘
副会長	S61年卒	加藤 達也
副会長	S63年卒	新井 達哉
副会長	S63年卒	佐藤 裕紀
副会長	H7年卒	森田 健司
副会長	H8年卒	吉川 高史
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S52年卒	佐藤 行正
幹事	S53年卒	高津 靖史
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	永田 高士
幹事	S55年卒	澤田 尚史
幹事	S55年卒	関口 弘和
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S58年卒	上林 三子雄
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	志村 さやか
幹事	S60年卒	渡辺 伸啓
幹事	S60年卒	古杉 裕亮
幹事	S60年卒	山本 美晃
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友妃子
幹事	S61年卒	関川 正
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	要石 博之
幹事	S62年卒	上倉 要介
幹事	S62年卒	尾立 源幸
幹事	S62年卒	川上 尚志
幹事	S63年卒	椎名 弘
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡田 貴子
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中村 元彦
幹事	H1年卒	菅野 雅子
幹事	H1年卒	吉田 慶太
幹事	H1年卒	北澄 和也
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H2年卒	藤本 貴子
幹事	H3年卒	志賀 恭子
幹事	H3年卒	鈴木 真紀江
幹事	H5年卒	荒張 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古内 和明
幹事	H5年卒	山邉 道明
幹事	H5年卒	関口 男也
幹事	H5年卒	神塚 勲
幹事	H6年卒	菅谷 圭子
幹事	H6年卒	松本 憲明
幹事	H6年卒	御厨 健太郎
幹事	H6年卒	関 浩一郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曽宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜人
幹事	H6年卒	田中 弘隆
幹事	H7年卒	森谷 健
幹事	H7年卒	荒谷 繁
幹事	H7年卒	北村 崇
幹事	H7年卒	秋山 修一郎
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H8年卒	高山 雄大
幹事	H8年卒	綿貫 敦文
幹事	H8年卒	高木 修
幹事	H8年卒	田近 和成
幹事	H9年卒	古賀 智彦
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H9年卒	広野 清志
幹事	H10年卒	江幡 淳
幹事	H10年卒	間宮 光健
幹事	H11年卒	池田 由範
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H13年卒	国見 健介
幹事	H13年卒	野中 将二
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H14年卒	黒澤 久美子
幹事	H15年卒	根建 栄
幹事	H15年卒	小川 雅嗣
幹事	H15年卒	野池 毅
幹事	H15年卒	双木 宏

役職	卒業年度	氏名
幹事	H15年卒	濱 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	並木 俊朗
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彩子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H16年卒	赤羽 悠二
幹事	H16年卒	柚野 慶二
幹事	H16年卒	岡田 泰治
幹事	H17年卒	渋佐 寿彦
幹事	H17年卒	加来 義智
幹事	H17年卒	齊藤 雄一
幹事	H17年卒	髙梨 良紀
幹事	H17年卒	渡辺 一生
幹事	H17年卒	福島 崇博
幹事	H18年卒	米田 恵美
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	片山 恵
幹事	H18年卒	斎藤 智記
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	山根 寿晃
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H21年卒	大星 宏晶
幹事	H21年卒	豊田 裕文
幹事	H22年卒	依田 知明
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H22年卒	森田 雄太
幹事	H22年卒	川西 祐輔
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南子
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H23年卒	福井 拓志
幹事	H24年卒	神原 大樹
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	韮澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	山本 早和美
幹事	H24年卒	荻野 創平
幹事	H24年卒	野村 孟弘
幹事	H24年卒	山内 里花子
幹事	H24年卒	芦川 昇平
幹事	H24年卒	柿沼 龍
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	H25年卒	濱田 浩介
幹事	H25年卒	井上 大輔
幹事	H25年卒	近藤 祐章
幹事	H25年卒	佐藤 佳樹
幹事	H25年卒	長野 早紀
幹事	H25年卒	浅見 理紗子
幹事	H26年卒	井口 蔵人
幹事	H26年卒	有馬 大騎
幹事	H26年卒	内藤 翔斗
幹事	H26年卒	古川 領亮
幹事	H27年卒	吉田 康太郎
幹事	H27年卒	裵 銀珍
幹事	H27年卒	古川 拳土
幹事	H27年卒	阿部 紀子
幹事	H28年卒	野村 航洋
幹事	H28年卒	山本 健太郎
幹事	H28年卒	大谷 晴香
幹事	H28年卒	柴田 勝浩
幹事	H28年卒	大塚 悠介
幹事	H29年卒	三浦 優一朗
幹事	H29年卒	清水 亮
幹事	H29年卒	鄭 善斗
幹事	H29年卒	岡村 拓門
幹事	H29年卒	島 仁美
幹事	H29年卒	井上 貴博
幹事	H29年卒	西村 英莉
幹事	H29年卒	寺谷 暢泰
幹事	H29年卒	水落 智久
幹事	H29年卒	塩谷 香乃
幹事	H29年卒	古作 祐真
幹事	H29年卒	後藤 祥平
幹事	H29年卒	井手 優太朗
幹事	H29年卒	上田 真士

役職	卒業年度	氏名
幹事	H29年卒	北野 友梨
幹事	H29年卒	小松 汐里
幹事	H29年卒	渡邉 紘子
幹事	H29年卒	大津 青葉
幹事	H29年卒	酒井 悠吾
幹事	H29年卒	清水 一輝
幹事	H29年卒	津川 雅樹
幹事	H30年卒	森 泰智
幹事	H30年卒	桂木 裕至
幹事	H30年卒	西崎 竜ノ介
幹事	H30年卒	石谷 麻子
幹事	H30年卒	中島 奈緒子
幹事	H30年卒	濱田 和輝
幹事	H30年卒	藤澤 大志
幹事	H30年卒	会川 智華
幹事	H30年卒	橋詰 日菜子
幹事	H30年卒	石井 奈緒
幹事	H31年卒	安田 真由子
幹事	H31年卒	宮川 和輝
幹事	H31年卒	鈴木 祥希
幹事	H31年卒	相原 理花
幹事	H31年卒	板東 真里
会計監事	S55年卒	市村 清
会計監事	H2年卒	茂木 哲也
年度世話人	S56年卒	金井 沢治
年度世話人	H3年卒	志賀 恭子
年度世話人	H3年卒	鈴木 真紀江
年度世話人	H13年卒	齊藤 慶三
年度世話人	H13年卒	本多 守
年度世話人	H13年卒	国見 健介
年度世話人	H13年卒	野中 将二
年度世話人	H23年卒	今野 洋
年度世話人	H23年卒	清水 裕文
年度世話人	H23年卒	奥山 健人
年度世話人	H23年卒	渡邊 三南子
年度世話人	H23年卒	津田 覚
年度世話人	H23年卒	福井 拓志
新人世話人	H30年卒	杉本 優太
新人世話人	H30年卒	富吉 遼太
新人世話人	H31年卒	宇野 耕太郎
新人世話人	H31年卒	小林 裕季
新人世話人	H31年卒	塩路 麻衣
新人世話人	H31年卒	高山 大輔
新人世話人	H31年卒	平井 謙利
新人世話人	H31年卒	皆川 幸旺
新人世話人	在学中(4年)	坂口 あかり
新人世話人	在学中(4年)	髙木 万里子
新人世話人	在学中(4年)	滝沢 美紀
新人世話人	在学中(4年)	古川 聖人
新人世話人	在学中(4年)	文屋 克隆
新人世話人	在学中(4年)	本田 瑠梨奈
新人世話人	在学中(4年)	武藤 葵
新人世話人	在学中(4年)	森 祐也
新人世話人	在学中(3年)	齊藤 智弘
実行委員	H4年卒	近田 直裕
実行委員	H4年卒	土田 恵一
実行委員	H5年卒	小松 亮一
実行委員	H9年卒	須山 誠一郎
実行委員	H16年卒	石川 資樹
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S41年卒	石井 清之
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯佐 富治
相談役	S45年卒	山田 幸太郎
相談役	S46年卒	佐竹 正幸
相談役	S49年卒	加藤 晶春
相談役	S56年卒	後藤 順子
相談役	S51年卒	山田 辰己
相談役	S52年卒	池上 玄
相談役	S55年卒	森 公高

公認会計士三田会・会則

制定　昭和52年 9月 1日
改正　昭和55年 1月21日
改正　昭和58年 1月10日
改正　昭和61年 1月17日
改正　平成15年 1月29日
改正　平成15年12月 4日
改正　平成20年 1月30日
改正　平成23年12月14日

第1章　総　則

（名　称）
第1条　本会は、公認会計士三田会と称する。

（目　的）
第2条　本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

（事 務 所）
第3条　本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

（事　業）
第4条　本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
2、内外の資料の調査、研究
3、業務情報の交換
4、会報その他刊行物の発行
5、その他前各号に附帯する事業

第2章　会　員

（会　員）
第5条　慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章　役　員

（会長、副会長、幹事）
第6条　本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は１名とし、副会長、幹事は若干名とする。

（会計監事）
第7条　本会に、会計監事２名を置く。

（相 談 役）
第8条　本会に、相談役を置くことができる。

（幹事及び会計監事の選出並びに任期）
第9条　幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。
幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第２回目の定時総会終了のときまでとする。

（会長、副会長、相談役の選任）
第10条　会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章　総　会

（総会の種類）
第11条　総会は、定時総会及び臨時総会とする。

（総会の開催）
第12条　定時総会は会計年度終了後5ケ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章　会　計

（会　費）
第13条　本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。
会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。
有資格者の会費については、これに準ずる。

（会計年度）
第14条　本会の会計年度は、毎年１月１日に始まり、１２月３１日に終わる。

第6章　会則の変更

（会則の変更）
第15条　会則の変更は、総会の決議による。

（附　則）
この会則は、昭和５２年９月１２日から施行する。

（附　則）（平成20年1月30日改正）
第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

（附　則）（平成23年12月14日改正）
第14条の改正は、第36事業年度より適用する。

©慶応義塾

http://www.cpa-mitakai.net

公認会計士三田会会報【第44号】（令和2年3月1日発行　昭和53年1月1日創刊）

編集発行：公認会計士三田会　佐藤裕紀 / 渋佐寿彦

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-5-1 近鉄霞が関ビル3F　佐藤裕紀公認会計士事務所内
電話：03-6852-6852　FAX：03-6852-6853　E-mail：sec@keiocpa.com